

令和6年度兄島における外来ネズミ類駆除計画（案）

1. 目標

2020年度の全島対策における課題を踏まえ、2016年度の全島対策程度にクマネズミの生息密度を低密度化させることを目標とする。

兄島全域においてクマネズミの生息密度を低密度化させ、次回全島対策の検討開始基準（センサーカメラによるネズミ類撮影率（陸貝生息保全エリア内=50枚/100カメラ日、陸貝生息保全エリア外=100枚/100カメラ日）以下の低密度状態を維持する

2. 対象地域

兄島全域において、2020年度の全島対策後よりもクマネズミの生息数を減少させ、低密度状態を長期化させるため、海岸部を含めた兄島全域を対象とする。

3. 実施時期

ヘリコプター等の資機材の調達、準備期間を考慮しつつ、なるべく早期での実施を検討した結果、実施時期は2024年11月とする

4. 使用する殺鼠剤

ダイファシノン剤であるヤソヂオンを使用する。ヤソヂオンには粒剤とスローパック剤があるが、剤の有効期間や非標的種に対する喫食防止を重視し、スローパック剤を使用することとする。なお、スローパック剤には5g分包と10g分包があるが、風による影響を極力抑え、より散布精度を高めることを重視して10g分包を使用する。

5. 殺鼠剤散布量、散布回数、散布間隔

2020年度の課題を踏まえ、散布量を増やし2016年度と同様の合計25kg/haとし、散布回数は3回とする。散布間隔は、1回目と2回目の散布間隔を3～4日間、2回目と3回目の散布間隔を7日間とすることを目安とする。

6. 島民への情報提供、説明、意見交換

計画案の段階から、対策の周知と、理解・協力を得られるよう、地域住民向けの説明会の開催やチラシの掲示・配布等複数の方法によって情報提供、意見交換等をする。また、関係機関や関係団体には個別に説明を行い、空中散布の実施中や実施後にも情報提供を継続的に行う。

7. 空中散布時の作業拠点と体制

父島（洲崎が候補地）に臨時ヘリポートを開設し、空中散布作業の拠点とする。環境省を

中心に、駆除工事受託者、環境配慮事業受託者、モニタリング業務受託者などが連携し、定期的に工程会議を開催して安全に散布作業が実施できる体制を構築する。

8. 散布状況のモニタリング

各回の散布後に兄島島内の複数地点でラインセンサスを実施し、殺鼠剤の散布量、殺鼠剤の消費状況を記録する。モニタリングの結果に応じて、次回の散布間隔や散布量を調整する。また、洋上や海岸での流出状況等を記録する。

9. 海上での殺鼠剤回収体制

小笠原島漁業協同組合の協力を得て、空中散布実施期間中に洋上への流出状況を確認し、流出が発見された場合には回収を実施する。

10. 非標的種への影響緩和

共通事項

陸水域に生息する生物への殺鼠剤影響の緩和や海域への流出を防止するため、沢や止水域においてスローパック剤を回収する。また、トンボ池などの小規模閉鎖性水域における網掛け作業等も併せて実施する。

オガサワラノスリ、アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリ

空中散布実施中に特段の影響緩和策は講じないが、傷病個体等が発見された場合には専門家や獣医師等の意見を踏まえた上で必要な処置を行う。

オガサワラハンミョウ

スローパック剤が巣穴上に落下した場合、生息状況に何らかの影響を及ぼす可能性があることから、営巣地においてスローパック剤の回収を行う。

11. 非標的種のモニタリング

鳥類等の非標的種への駆除による影響に関し、専門家や関係機関の意見を聞きながら、モニタリング調査の計画を作成し、調査を実施する。

12. 環境影響のモニタリング

土壌、海水、淡水について、殺鼠剤有効成分の残留有無を調査するため、空中散布の前後において3地点でサンプルを調査し、分析を実施する。

13. 陸産貝類、ネズミ類のモニタリング

現在実施しているモニタリング調査を定期的に行い、殺鼠剤散布後の生息状況を把握

する。

1 4. 全島対策後の対応

今回の全島対策では 2016 年度同様の低密度化を目標としており、空散が計画通り実施された場合、空散後の BS の稼働継続は費用対効果が低いと考えられるため、BS の稼働は一時中断する。2020 年度の全島対策では空散後も BS の稼働を継続させたが、陸産貝類保全エリア内における十分なネズミの低密度化や島内のネズミの生息密度の増加を抑える効果は得られなかったため、BS の稼働は陸産貝類保全エリア内での陸産貝類の食害の発生の抑制を目的とし、空散後に実施するネズミ類のモニタリング調査において、2 月連続で兄島島内の複数箇所（2 箇所以上）でネズミが確認された場合、BS の再稼働を行う。

1 5. 対策効果の評価方法

陸産貝類の生息状況及び食害状況やクマネズミの生息状況のモニタリング調査結果から、全島駆除の効果を評価するとともに、次回の全島駆除の実施スケジュールを判断する。